



Vol. 9

発行日 2010年 10月1日

大阪学院大学／大阪学院短期大学
国際センター ニュースレター

1. 2010-2011国際交流プログラムスタート

世界各国の提携大学から73名の留学生を迎え、9月9日から国際交流プログラムの授業がスタートしました。今年度は、午前中の日本語クラスが4から5レベルに増え、午後は英語で教える専門科目6つ、易しい日本語で日本文化を学ぶ科目1つ、目的別日本語クラス4つと、これまで以上に充実したプログラムになっています。今号では、授業スタート前に実施したオリエンテーションをレポートします。

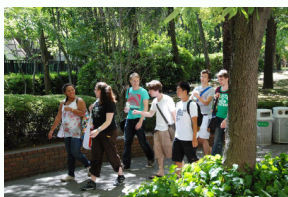
大阪学院大学国際センターは、9月6日に2010-2011交換留学生をキャンパスに迎えました！OGUのキャンパス国際化の取組みとして、国際センターは様々な国と地域からの留学生を迎え入れ、地域的なバランスが取れるようにしています。今年は、世界15の国と地域から73名の留学生がキャンパスにやってきました。彼らの出身国は、アメリカ、メキシコ、オランダ、アイスランド、フィンランド、チェコ共和国、フランス、ドイツ、イタリア、オーストリア、フィリピン、タイ、韓国、台湾、中国です。世界地図が思い浮かびましたか？国際センターは、独自の文化を持つ留学生たちが、キャンパスに国際的な雰囲気をもたらすことを期待しています。留学生たちは1学期あるいは2学期間OGUで勉強しますが、その間、OGU学生、ホストファミリー、地域の人たちとの交流を通して日本語や日本文化を学んでいくことでしょう。

国際センターでは、9月6日から8日にわたり留学生のオリエン

テーションを実施しました。まだまだ猛暑が続く中、留学生たちはがんばって最初の3日間を乗り切りました。今年は留学生の人数が大幅に増加したため、オリエンテーションに新しい取り組みを取り入れました。

オリエンテーションの新しい取り組み

- キャンパスを出ることなく留学生たちが携帯電話やWiFiの申込みをし、また印かんが作れるように、携帯電話、インターネット、印かんの会社の方々にキャンパスに来ていただきました。また銀行口座開設のために、事前に銀行の窓口を訪問する日時を予約できるようにしました。



目次:

10-11国際交流プログラム	1
10-11派遣交換留学生	1&2
“異文化に触れた韓国留学”	
新田 桜	2
CET生活シェアプログラム	3
ホストファミリーの心がけ	4
国際センター News 他	4

- 日本語だけでなく、英語、中国語、韓国語、そしてフィンランド語の語学サポートを提供し、日本語がまだ流暢ではない留学生たちをサポートしました。

- ISSTヘルプデスク。留学生をサポートするボランティアグループISSTの学生たちは、夏期休暇中の1週間を返上して、留学生と国際センターのサポートをしてくれました。到着直後の出迎えのみならず、留学生の日本やOGUでの生活に関する質問に答えてくれるヘルプデスクを設置してくれました。この場を借りて、彼らのサポートに感謝します！

OGU学生たちにとっては、この73名の留学生たちと交流することにより、このキャンパスが世界を身近に感じられるグローバルな場所になることでしょう。10月の岸辺祭にでも、留学生とコミュニケーションを取るチャンスがあります。OGU学生の皆さん、このチャンスを最大限に活かしましょう！(M.T.)

2. 2010-2011派遣交換留学生～First Report

9月7日に最後の学生が出発し、これで28名の派遣交換留学生全員が海外での留学生生活をスタートさせました。到着後は思わぬ出来事が起こったり、想像以上の言葉の壁にぶち当たったり、それぞれが大変な思いをしているようですが、今年は“Trouble is Welcome”を合言葉にみんな頑張っています。今号では、アメリカ、ヨーロッパ、アジアに留学中の3名の学生たちの奮闘記を掲載します。

外国語学部3年次生 太田 智美
Marywood University (U.S.A.)

私がスクラントンという街に来て、2週間(9月9日時点)が経ちました。街や学校には、緑が多く、空気が綺麗で、とても落ち着いています。でも逆に言えば、学校の周りには娯楽施設がなく、コンビニに行くにも徒歩で15分かかります。とてもじゃないですがダウンタウンまで歩いて行くことは出来ません。ダウンタウンへのバスもありますが、運行日や時間が限られているので、車がないと少し不便な場所です。学校では、現地学生たちには日本人が珍しいのか、みんな笑顔で話

しかけてくれます。ただ留学生は少なく、他の国の人たちと交流が出来ないのが少し残念です。でもここは本当に英語が身に付く環境だと思います。まだたった2週間しか経っていませんが、日本語が話せる人や日本に興味がある人に出会っていません。街を歩けば、日本車はたくさん走っていますが、それが日本の会社の車であると認識している人は少ないようで、同じ先進国と言われているのに、日本もまだまだだと感じさせられました。これからは語学力向上だけでなく、日本のことを1人でも多くの人に伝えられる

(2ページに続く)

ように、ここで半年間がんばって勉強していきたいと思います。



英語プログラムのクラスメートたちと
(本人左から2人目)

経済学部3年次生 吉田 圭吾 Linnaeus University (Sweden)

ここまでのスウェーデンでの留学生活は大変なことばかりです。まずは大学の授業ですが、現地の学生と同じ正規の授業を受けています。こちらへ来る前から大変だとは覚悟していましたが、予想を上回る難しさで、授業についていくのに精いっぱいです。しかし授業よりも日常生活の方が大変かもしれません。なぜかと言えば、街中や大学構内の看板に一切英語表記がないからです。どこへ行くにも周りの人に聞きまくり、しかもすべての人が英語を話せる訳でもないのです。スウェーデン語を勉強せねばと感じています。そんな日常生活のなかでも1番大変なのが日々の買い物です。すべての商品がスウェーデン語表記のみで、それが本当に自分が欲しいものなのかを見極めるのにかなり時間がかかります。また時間をかけて買っ

たにもかかわらず、家に帰って開けてみると自分の想像とは違っていたりということもしばしばです。例えばきのこベースのソースだと思って買った缶詰の中身がきのこだけだったり。これからも大変な事が一杯だと思いますが、しっかり単位が取れるように、また少しでもスウェーデン語が理解できるように頑張ります。

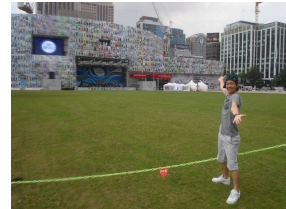


吉田君のホストファミリー (本人左端)

外国語学部3年次生 柴田 脩平 スンチョンヒャン大学 (韓国)

私は将来の夢に向けて、韓国語と英語力を身につけ、また視野を広げたいと思い、スンチョンヒャン大学に来ました。ここでは現地の韓国人はもちろん、中国、アメリカ、メキシコ、オーストラリア、イギリス、インドネシア、カンボジア、コロンビアなど様々な国から来た留学生がたくさんいます。寮で一緒に生活している留学生たちとのコミュニケーションは英語で、さらに韓国語を学ぶ授業に加えて、一般科目を英語で学ぶ授業もあるので、自分の英語力のなさに落ち込む毎日

です。韓国の学生たちは、プライベートではお酒をたくさん飲みますが、勉強する時にはまじめで、英語も上手で、本当に勉強熱心です。私は言葉が出来なくても最初の印象が大切だと思い、自分から積極的に声をかけるようにしたら友達もできました。また、サッカーのチームにも参加しています。韓国語で簡単なことを言うのにもまだまだ不自由していますが、ルームメイトが韓国人ですし、他にも日本語を学びたいという学生が多く、日本語を教えたり韓国語を教わったりしています。まだ始まったばかりという考えはなく、あと4カ月しかないという気持ちの方が強いので、もっとアクティブに自分から多くの人と喋ったり、出掛けたりして、毎日いろいろな人とコミュニケーションをとっていく事が大切だと思います。そしてこれを行動に移していきます！



(上) ソウル市役所の前で
(下) 韓国語のクラスメートたちと (本人中央)

3. “異文化に触れた韓国留学”～外国語学部3年次生 新田 桜

韓国へ行く前の新田さんは、周囲のいろいろなことに満足できず、どうかしてその状況を変えたいと悪戦苦闘していたように思います。そんな中、本年3月から4ヶ月間、韓国にあるベツソク大学に留学に行きました。帰国した彼女は、以前に比べて表情に自信がでて、あまりの変化に国際センターのスタッフは新田さんだとわからなかったぐらいです。そんな新田さんは、OGU学生にぜひ交換留学に行ってほしいと力強く語ってくれました。

私は、異国でしか学ぶことのできることを経験したくて、また異文化を学びたくて、韓国に半年間交換留学に行きました。しかし現実には厳しく、現地で韓国語を学び始めると、思っていたよりも難しく大変な思いをしました。旅行で行くだけなら、現地で言葉が通じなくても何とかありますが、生活するとなると言いたい事が伝わらなくて悲しく辛かった時もありました。それでも、慣れてくると韓国人の友達もでき、

最後には一緒に旅行に行くほど仲良くなりました。日常生活はというと、現地の学生たちと毎日会話をするのでもちろん自然と言葉を覚えることができ、3ヶ月が過ぎる頃には、まがりなりにも会話ができるぐらいになりました。自分の言いたいことが相手に伝えられるようになりました。日本では簡単に伝わることで、韓国語でとなると難しく、初めて相手が私の言いたいことを理解してくれた時は、本当に嬉しかったです。このことを通して、言葉はコミュニケーションをとる手段であり、改めて言葉を学ぶ大切さを知りました。

さらにベツソク大学での学期終了後、韓国人の友人の好意で、2ヶ月間ソウルの彼女の自宅ホームステイをしました。実際に現地の家族と生活をして、大学生活で感じた以上に文化や習慣の違いを感じました。誰でも知っていることですが、韓国料理は本当に辛くて辛いです。ホームステイ先では、ほぼ毎日食卓になにかしら辛い料理が出てきました。またホームステイをしている間に、家族でキムチを漬ける手伝いをさせてもらいました。韓国人の家庭にはキムチ専用の冷蔵庫があるのにもびっくりしました。日常生活で

感じた習慣の違いは、湯船につかる習慣が無い、バスや車の運転がとても荒い、日本に比べて交通費が格段に安い、食堂に行くと無料のおかずがたくさん出てきて、それがお代わり自由だなどなど、たくさんありました。日本だったらこうなのにな～と比べてしまいましたが、お隣の韓国と日本は似ているようで、違うところも多いと肌で感じました。今回の留学経験から韓国のみならず日本以外の国に興味を持つようになったので、今後は他国との文化の違いについてもっと学びたいと考えています。皆さんもぜひOGUで留学のチャンスを掴んでください！



(左) ホームステイ先の友達とお母さんと (本人右)、 (右) 典型的な

4. 留学生との共同生活で世界観が変わる～CET生活シェアプログラム

大阪学院大学とCETアカデミックプログラム(以降CET)は、2010年1月19日に協定を締結しました。CETはアメリカのワシントンDCに本部がある留学機関で、毎年数多くの有名アメリカ大学の学生たちを世界各国に送り出しています。そのプログラムは中国から、チェコ、イタリア、スペイン、シリア、ベトナムにまで及び、日本では大阪学院大学が唯一の派遣先として選ばれています。

CETの留学生たちは、日本語や日本文化を学ぶことに意欲的で、日本での生活を通じて視野を広げ、異文化理解を深めるという目的を持っています。そのようなCET留学生の要望に応え、また、OGU学生たちにも同じように視野を広げ、異文化理解を深めてもらうために、“生活シェアプログラム”が始まりました。このプログラムでは、アパートでCET留学生とOGU学生が同居し、お互いの国の考え方や生活習慣を学びます。使用言語は基本的に日本語ですが、OGU学生にとっては、アメリカの大学生の考え方、生活習慣を学び、日本にいながらにして異文化体験ができる貴重な機会となります。毎日の食事の準備、掃除、洗濯をはじめ、テレビを見ながらの会話、週末の外出など、どちらの学生にとっても生活全てが学びの場となる画期的なプログラムです。

実際にプログラムに参加した学生たちに話を聞いてみました。

「最後の1週間はお互い離れたくないと何度も二人で泣きました」と目を輝かせながら熱く語ってくれたのは、この夏CET生活シェアプログラムに参加してくれた外国語学部2年次生今北奈津子さん。今北さんは5月28日から7月24日まで、アメリカのピッツバーグ大学からの留学生リカ・ホルトグレーバさんとアパートで同居する“生活シェアプログラム”に参加しました。

アメリカ人に持っていたイメージ

今北奈津子さん(以下N):

「最初アメリカ人のルームメイトと聞いて、パリス・ヒルトンみたいな人を想像していましたが、写真を見ると実際は茶色い髪、茶色い目の女の子でした。」



日常生活について

N:「私がメインで食事を用意しました。日本食を食べさせてあげたくて、ご飯にお味噌汁、プリの照り焼きといったメニューを用意しました。すごくおいしい！と喜んでくれてうれしかったです。」

リカ・ホルトグレーバさん(以下R):

「これまでアメリカでもルームメイトと生活したことはありませんでしたが、日本人のルームメイトは初めてでした。思っていることを何でもはっきりと伝えるアメリカと違い、日本では状況から意味を読み取ることが大事なので、奈津のしていることをよく見て、料理の手伝いや後片付け、掃除を自分から率先してしました。」

2人の絆を深めた出来事

N:「リカさんが風邪を引いて熱を出してしまって、声も出せないくらいひどい状態になりました。その時に10分おきにタオルを換えて看病しました。私にとっては当たり前のことだったのですが、リカさんはとても感動してくれたので、私もやりがいがありました。」

R:「外国にいて病気になった時にどうやって病院に行くのかはもちろん、どうしたら良いか全くわからなかったの、そんな時に奈津が看病してくれ、翌日には一緒に病院に行こうかとまで言ってくれたので心強かったです。このことについては、本当に言葉では言い尽くせないほど感謝しています。」

今後参加する学生へのアドバイス

N:「一番大切なのはコミュニケーションを取ること。話すだけでも楽しいので、どんどんルームメイトに話しかけてください。」



京都観光を楽しむリカさんと今北さん



CET ACADEMIC PROGRAMS

“一番大切なのはコミュニケーションを取ること”

R:「CETの学生は、日本に来る前に日本文化について勉強してきた方が良いです。それから何か問題があるときは、相手にきつい言葉で伝える前に、まずは状況をよく観察して本当の問題が何かを見つけてください。」

楽しい時も辛い時も一緒に過ごしてきた8週間。リカさんは、同年代の日本人学生と一緒に住むことは、ホームステイとは違った経験になってよかったと言います。今北さんも、普段経験できないことができ、英語を学ぶ動機がさらに高まったそうです。二人とも将来の夢は先生になること。最後には、お互いに「絶対いい先生になろう！」と約束を交わして別れました。

CETの生活シェアプログラムは、CET留学生にとっても、OGU学生にとっても、かけがえない貴重な文化・習慣の学びの場となっています。生活シェアプログラムは夏だけではなく、秋学期(8月から12月)と春学期(1月から5月)にも実施されますので、興味のある学生は、電話(06-6381-8434)またはメール(inoffice@ogu.ac.jp)で国際センターにお問い合わせください。

(T.K.)



CETの参加学生と生活シェアの学生たち

生活シェアとは？

CETプログラムに参加しているアメリカ人学生とOGU学生が大阪学院大学近くのロフト付きワンルームで共同生活を送ります。日本語でコミュニケーションを取ることが基本になっているため、英語が話せなくても参加できます。日本にいながらプチ留学体験ができます。

5. ホストファミリーの心がけ Part 5～寺村優子

留学生のご家族や友人の訪問

ほとんどのホームステイプログラムでは「基本的に友人や家族を招いてはいけません」と学生に説明されていると思います。しかし、それでも学生はお願いをしてくるものです。この時、ダメならダメとはっきり言わなくてはなりません。ここで、うやむやな態度をとると、取り返しがつかない事態を招きます。例えば、「家族が日本に来るので3日ほど泊めてください」と頼まれ、OKしたら次々に親戚やボーイフレンドがやってきたという事例を聞いたことがあります。また、ホストファミリー(以下HF)の留守中に異性の友達などを部屋に入れていたという事例も耳にしたことがあります。学生にしてみれば、「へっ? いままで、友達を連れてきてもいいよって言っていたのに、なぜ今回は叱られなくちゃならないの?」と反発されることになります。そんな事態を防ぐためには、最初の

段階で、だめなものにははっきりNOと言うことです。

OKする場合の心得としては、まず、滞在期間を明確に決めることです。いつからいつまでいらっしゃる予定なのか、両者立ち会いの元で、カレンダーに書き込みを入れるとよいでしょう。滞在の延長が不可能な場合は、ダメだとはっきり伝えます。お互いがルールを把握すれば、問題は起こらないでしょう。

我が家の場合、夕飯は基本的に用意しないことにしています。なぜならご家族の方たちも、せっかく日本に来たのだからガイドブックに載っているようなレストランの食べ歩きもしたいでしょうし、帰宅時間を気にしての観光だと楽しめないと思うからです。

ですが、せっかくいらしたのですから、交流の機会も持たたいものです。例えば、2週間ほどの滞在中に、数日は家庭料理でおもてなしをする、あるいは外食にお誘

いしたりしました。大晦日に家で一緒に年越しそばを食べ、元旦にはお雑煮とおせちと一緒に新年を祝ったこともあります。またお互いに話し合って都合のつく日に一緒に観光し、外国人だけでは入りづらく、オーダーしにくいようなお店にお連れしたこともあります。居酒屋、焼鳥屋、回転寿司などはとても喜ばれました。また買ってきてくれたケーキを食べながら、その日観光をしてこられた場所について話を聞いたり、写真を見せてもらったり、ショッピングの戦利品を見せてもらったりして、話が盛り上がりしました。ご帰国後も丁寧なお手紙とプレゼントが届いたりして、さらに交流が深まりました。草の根国際交流って、このようなことなのだと思います。

(次号に続く)

6. 国際センター News

インターンを紹介します!

本年7月までフィンランドのハーガヘリア大学からの交換留学生としてOGUで日本語を勉強していたアンチ・クナス君が、来年の1月までインターンとして国際センターに加わりました! ハーガヘリア大学ではインターン実習が単位認定されます。

アンチ君からの自己紹介:

「初めまして! フィンランドから来たAntti Kunnasと申します。2009年の9月から今年の7月までOGUで交換留学生として勉強をしました。8月30日に国際センターの初めてのインターンとして研修を始め、2011年の1月まで国際センターでインターンをする予定です。一般的にフィンランドと日本は全然違うと思っている人が多いと思いますが、同じところたくさんあると思います。日本と日本語が大好きなので、それが他の何よりも一番時間がかかる趣味ですね。以前はアニメもたくさん見ましたが、最近は忙しくて見る時間はもうないです。もしヨーロッパ、特に北欧に興味があったら、是非何でも聞いてく



オフィスで働くアンチ君

ださい!」

たくさんの留学生を迎えた国際センターでは、日本語、英語、フィンランド語のできるアンチ君の存在は非常に大きいです。でも、もしかするとフィンランドから来た9名の学生たちが一番心強いかもしれないですね。国際センターの新しいインターン生、アンチ君をよろしく願います。

オープンキャンパス

7、8、9月、5回にわたり高校生向けのオープンキャンパスが開催されました。交換留学から帰国した留学生たちが、留学に興味のある高校生たちに自分たちの経験を語り、OGUの交換留学プログラムをアピールしてくれました。実際に経験した学生たちの言葉には説得力があり、高校生たちも熱心に耳を傾けていました!



ブースで説明する帰国留学生たち

「岸辺祭」参加

10月22日から24日に開催される岸辺祭に、留学生ブース“OGU国際通り”を出店します! 世界各国の料理を準備する予定です。ぜひ73名の留学生たちに会いに来てください!

ISSTメンバー募集

海外からの留学生をサポートするボランティアグループISST (International Student Support Team) のメンバーを募集します。この秋、新しいリーダー3名を迎え、新生ISSTとしてスタートしました!



ISSTリーダーたち: 左から三崎大地君、千葉アナパウラさん、加藤裕太郎君

ISSTからのメッセージ:

「ISSTはOGU学生によるボランティアグループで、外国からきた留学生の日常生活をサポートします。このグループの目的は、OGU学生と外国人留学生との交流を促進することです。留学生と仲良くなりたいあなた、ISSTのグループの一員になりませんか? 興味のある学生は国際センターに来てください!」

国際センターBLOG 開設のお知らせ!

今月、新たに国際センターのブログを開設しました。ニュースレターに載せきれない様々な情報をブログで発信していきたいと思っています。OGUのホームページからもアクセス可能です。

<http://inoffice.blog102.fc2.com/>

大阪学院大学・大阪学院短期大学 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

Tel: 06-6381-8434(代) Fax: 06-6381-8499 Email: inoffice@ogu.ac.jp